飛び立とう！輝ける未来へ

思い出を胸に 巣立っていく ９名の卒業生

舟着

第１３６号
新城市日吉字小袋 13
電 0536-22-0252
http://www.city.shinshiro.ed.jp/funatsuke-el/

「当たり前のこと十か条」と共通するもの

校長　林　亨

四年前、舟着小学校に欠けているものを取り戻そうと、『当たり前のこと十か条』を取り入れ、皆さんと一緒に一生懸命取り組んできました。特に、六年生になった君たちは、率先して十か条に取り組んでくれました。ありがとう。

皆さんが四年生の時から始めた「エコキャップ（ペットボトルキャップ）の回収運動」は、全校を巻き込んで、成果を上げてきました。六年生になって最後のまとめとして、蒲郡のビッグ合成樹脂に行き、そこで大切なことを学ぶことができました。

ビッグの杉浦光行社長は、「あいさつ、履物、掃除」の大切さをこんこんと話されました。「勉強が出来たってあいさつもできんようなのはだめだ。少しぐらい勉強が出来んでもあいさつがきちんと出来る子のほうが世の中の役に立つんだ。整理整頓が出来ない人は、絶対に勉強はできん。」とはっきりと言われました。みんなもこれには驚いて真剣に聞いていましたね。

ビッグ合成樹脂の会社の前で

これは、『舟着小学校当たり前のこと十か条』にピタリと符号するのです。そして極めつけは、「人生は、自分の名前をていねいに書くことからすべてが始まる。」と言われたことです。そのとおりだと思います。校長先生は、皆さんに、作品を作る時、まず、「作品を描く前に、丁寧に、学年、名前を書きなさい。」と言い続けてきました。それほど、皆さんは自分の名前を大切にしていないのです。また、持ち物にも執着が無いのです。これは、大人にとっても同じです。例えば電話の対応です。相手の方はほとんどが自分の名字しか名乗りません。こちらは、連絡のとき「〇〇さんから電話です。」と言いますが、〇〇さんだけでは分からないことが多いのです。だから私はいつも、「フルネームを名乗るように、聞くように。」と言っています。それほど名前というのは大切なものです。今からでもすぐにできることです。実行してみてください。

もうひとつ大切なことは、どんな活動でも、多くの人たちの応援によって支えられているのだということです。

最後の卒業チャレンジ「松山峠越え」は、舟着小学校六年生の伝統行事になっていくと思います。今年は九名のチャレンジに二十五名の大人が応援に参加してくれました。皆さんは、自分たちだけでできたのではない、多くの人たちの助けがあったからこそ出来たのだということをよく知っておいてほしいと思います。